

《担当者名》木浪智佳子[kinami@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

小児看護の対象者である子どもと家族を理解するための諸理論を学び、子どもと家族の健康に影響する要因や生活状況の理解を深め、看護援助に応用するための基礎的知識を習得する。また、乳幼児精神保健に関する近年の研究知見の文献を講読し、子どもと家族の関係性の問題に対する看護援助の方法を学ぶ。

【学修目標】

小児看護で用いられる理論を理解し、子どもと家族への看護実践に適用可能性を述べることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	小児看護で用いられる理論（講義）	小児看護の実践で用いられる小児の成長発達、セルフケア、コーピングに関する理論、家族に関する理論を概観する	木浪
2 3	子どもと家族を対象とした理論1（院生のプレゼンテーション）	各自が関心を持った理論を紹介し、小児看護への応用可能性についてディスカッションする	木浪
4 5	子どもと家族を対象とした理論2（院生のプレゼンテーション）	各自が関心を持った理論を紹介し、小児看護への応用可能性についてディスカッションする	木浪
6 7	子どもと家族を対象とした理論3（院生のプレゼンテーション）	各自が関心を持った理論を紹介し、小児看護への応用可能性についてディスカッションする	木浪
8 9	子どもと家族を対象とした理論に基づく看護援助1	子どもと家族の発達、セルフケア、コーピング等に関する理論を基盤とした看護介入について文献抄読とディスカッションを行なう	木浪
10 11	子どもと家族を対象とした理論に基づく看護援助2	子どもと家族の発達、セルフケア、コーピング等に関する理論を基盤とした看護介入について文献抄読とディスカッションを行なう	木浪
12 13	乳幼児精神保健と看護	子どもの情緒ならびに親子の関係性がどのように発達するか、これらの発達が阻害された場合にどのような障害が生じるか、先行研究の知見を概観する	木浪
14 15	乳幼児精神保健の向上を目指した子どもと家族への援助	各自が出会った事例をもとに、乳幼児精神保健の理念を踏まえ、子どもと家族の健康を促進するための援助について、検討する	木浪

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

ディスカッションの参加（30%）、プレゼンテーション（70%）により評価する。

【教科書】

適宜提示する

【学修の準備】

事前に指定された文献を読み、課題に沿ったプレゼンテーションの準備をして講義に臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。